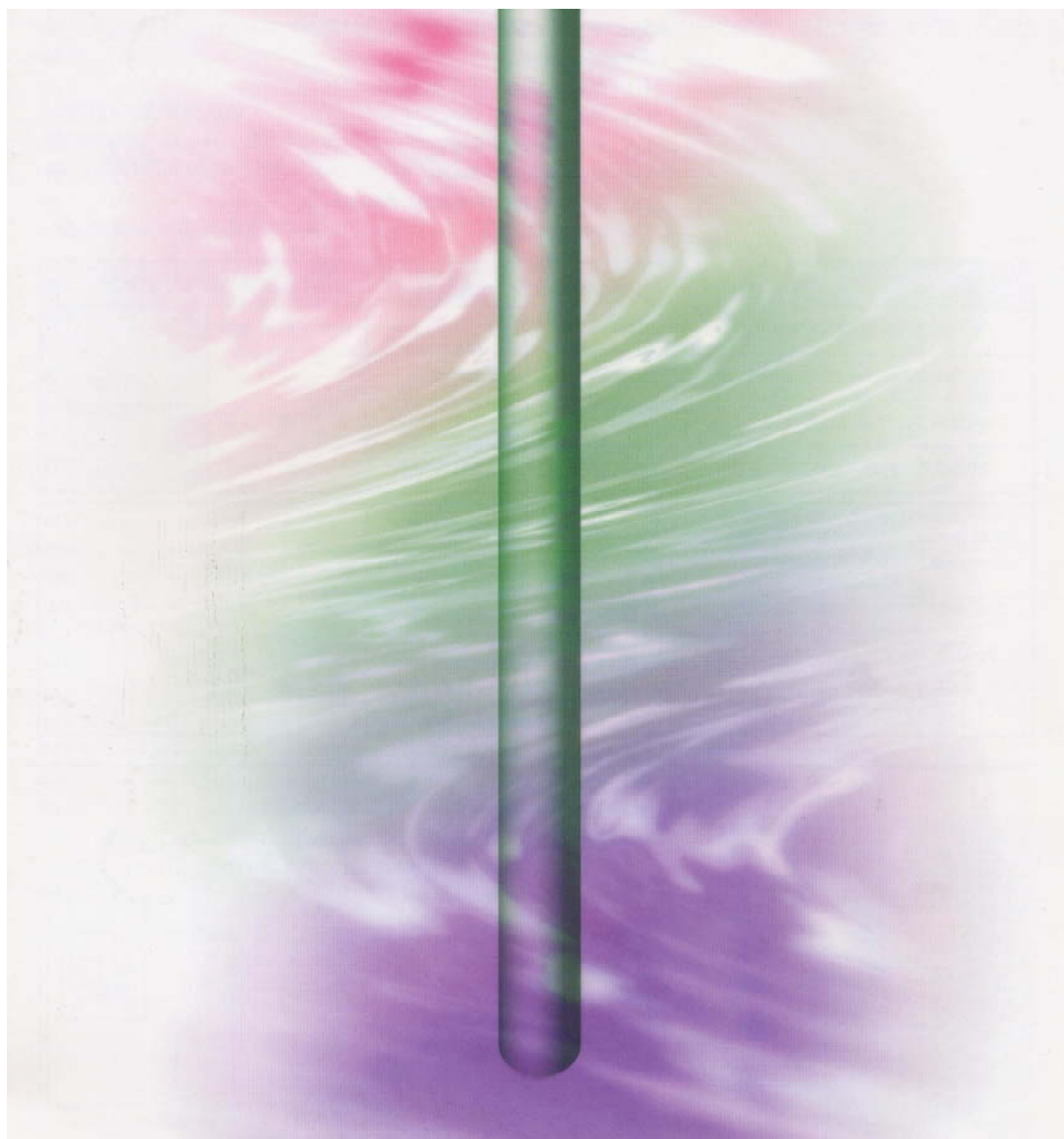


セ ン サ ー

2018年 1月号 第50号

東京温度検出端工業会 会報



年頭にあたって思うこと

2018年1月

会 長 林 正 樹

皆様、明けましておめでとうございます。本年も工業会の活動にご理解とご協力の程、お願い申し上げます。

昨年もいろいろな出来事がありました。我々に関係がある出来事として、秋以降に発生した品質不正問題があります。大手のメーカーで、検査データを改竄したり、資格のない検査員が検査したり、ということが次々に発覚しました。背景には強度や寸法が規格外であっても顧客との話し合いで出荷できる「トクサイ」（特別採用）と呼ばれる商習慣や、形骸化した検査制度があるようですし、このことで実害は出ていないようですが、不正は不正であり、日本の工業製品が長年かけて築いてきた「品質」に対するイメージを大きく損なうことになりかねないのではないのでしょうか。実際に報道によれば不正が発覚した企業の株式の時価総額は、発覚前と比較してトータルで1兆円！も下がった、とのこと。この問題で最も大きな不利益を被ったのは当該企業の株主かもしれません。

そういうことのあった昨年暮れの12月11日、JR東海道・山陽新幹線のぞみの台車に亀裂が入って、あわや大惨事になるところでした。テレビのニュースで映された映像では、本当にあと数センチで完全に破断するところでした。鋼鉄製の台車枠にあのような亀裂が入るものだろうか思うのですが、調べてみると車両の重量が40t以上、それを前後で4軸、8個の車輪で支えていて、車両が浮き上がったり沈み込んだりするたびに負荷が変化するので、思った以上に台車枠には負荷がかかっているのかもしれない。これが設計上の欠陥であれば、他の台車枠にも同様のことが起きて不思議ではないのですが、他の台車枠には起きていないようなので、この台車枠固有の欠陥だったと思われます。当日の朝も始業検査で台車も見たとのことなので、最初はほんの小さな欠陥が、意外に速いスピードで亀裂が大きくなっていったと思われます。

また博多発ののぞみが名古屋駅で台車枠の異常が発見されるまで、乗務員が何度も異変に気づいていながら走り続けたのも問題でした。最初は博多駅を発車した直後に異音があり、その後も異音、異臭、車内にもやが立ちこめたことがあり、岡山駅で保守担当社員が乗り込んで東京の指令所とやりとりがありながら、名古屋駅まで走行してしまいました。報道によれば保守担当は「指令員がどこで点検をするのかを調整していると思った」と言い、一方、指令員は「保守担当は車両の専門家なので、点検が必要ならばはっきり伝えて来る」と思った、と言っています。この背景には、JR西日本の社長の記者会見では否定していましたが、運行スケジュールの優先、厳守ということが会社全体にあり、特に現場は常にそのプレッシャーにさらされているのではないのでしょうか。

このことは視点を変わると、我々利用者がスケジュール通りの運行を望んでいる、というか、要求しているところがあり、それが会社や運行する現場にプレッシャーとなっている、ともいえましよう。社会全体にゆとりが無くなったように感じられます。昔、鉄道好きで有名だった小説家の内

田百聞の随筆に「鉄路恙（つつが）なく〇〇に到着」という文章があり、ゆったりと安全に到着して良かったという感じが表れています。確かに今の新幹線の超過密スケジュールを、毎日、殆ど遅れることなく運行していることは賞賛すべきことでは、安全を犠牲にしてまで行うことではありません。時々、静岡駅のホームで東京行きのこだまやひかりを待っていると、本線をのぞみが時速 300km 近くの猛烈なスピードで通過していくのに遭遇しますが、その音や風圧に接すると、なにか非日常的な体験というか、ただごとではないものを感じてしまいます。「ああ、これで車輪が脱線したら、とんでもない大惨事だな」と思ってしまいます。今後は安全神話に驕ることなく、旅客の安全を肝に銘じて運行して行って欲しいものです。また我々も安全のためならスケジュールが乱れ、到着が遅れても文句を言わないようにしたいものです。

これらのことは別にして、現在の日本経済の状況は悪くないようです。AI や IoT の影響で世界的に半導体・電子部品の需要に拍車がかかり、一部の半導体製造装置は奪い合いの状況のようです。また AI による自動車の自動運転の開発が急ピッチで行われていますし、ガソリンエンジンから電気によるモーター駆動への変化も当初、思っていた以上の速さで進みそうで、そのための開発投資が盛んに行われています。日本経済新聞ではこれら一連の動きを「AI 産業革命」と表現していました。これらの動きが短期的に終わるのではなく、今後の日本経済が長期に亘って成長できるものに繋がって行って欲しいものです。

最後になりましたが今年一年の当工業会の会員会社の益々の発展と、皆様のご健勝を祈念いたします。

会員紹介

日機装サーモ株式会社

当社は 1984 年に日機装株式会社および米国 Y S I 社との合弁によりサーミスタおよびサーミスタプローブの生産を開始いたしました。

現在、東京都武蔵野市の本社兼工場において温度関連のセンサーを中心に生産、販売を行っております。

また、2014 年に海外合弁先が世界的なコネクタ・センサー企業である TE Connectivity 社となり、同社が生産する多種多様なセンサーを輸入販売することができるようになりました。

今後も温度センサーを中心にお客様のご要望に沿った製品を提供して参ります。

代表取締役社長 千野貴史

〒180-0022 東京都武蔵野市境 2-4-24

TEL 0422-37-9811

FAX 0422-37-9820

<http://www.nktherm.com/>

二宮電線工業株式会社

1960年の創立からこれまで、「企業は人なり」の基本理念に基づいて、人材を"人財"と考え、社員満足度を高めることで、当社は一步一步成長してきました。

産業界の温度管理に必要な不可欠な温度計測関連の製品や厳しい環境下で使用される耐熱電線などの特殊電線を中心に製造販売をするメーカーとして半世紀以上、他者の追従を許さない安定した品質とサービスの「差異性」を追求し、「小ロット・多品種・高品質を短納期で」をスローガンに、ひとつの拠点で全社員が集い事業を行うことでのお客様からのご要望へのレスポンスの早さ、安定した品質できめ細やかな心を込めたサービスを実現しております。「熱と計器の間にいつもNINOMIYA」を合言葉に、これからも熱と計器の間をつなぐ重要な架け橋として、広く産業界に貢献していきます。

代表取締役社長 二宮 崇

〒 252-0206 神奈川県相模原市中央区淵野辺 2-15-16

TEL : 042-753-4151 (代表)

<http://www.ninomiya-ew.co.jp/>

株式会社 日本サーモ

当社は2010年に創業し、ようやく9年目を迎えたばかりのまだまだ若い会社です。

熱電対や測温抵抗体など、温度センサーの設計・製造・校正を主な事業としています。

今後は航空、宇宙などで使用する特殊なセンサーならびに圧力プローブにも積極的に取り組んでいきたいと思っており、更に極低温から超高温域まで、非常に厳しい条件下で使用するセンサーにも挑戦していきたいと考えています。

また、現地工事や現地校正も行っています。

専門メーカーと協力し、計測器と温度センサーをセットにした商品の販売も行っています。

小さな会社ですが、その分小回りが利く事を武器に今後も頑張っていきたいと思いますので、お困りの際は気軽にお声がけ下さい。

今後共よろしく申し上げます。

代表取締役社長 堀井 淳次

〒 183-0055 東京都府中市府中町 1-35-11

TEL 042-319-8511

FAX 042-319-8514

<http://nhn-thermo.co.jp/>

会の動き

- ◎平成 29 年 2 月 3 日 新春講演会 … 参加者 26 名 (16 社・団体)
会場：TKP 東京駅八重洲カンファレンスセンター
内容：燃料電池自動車の動向
講師：大仲英巳氏
- ◎平成 29 年 2 月 3 日 新春懇親会 … 参加者 31 名 (16 社・団体)
会場：日本橋いずみや
- ◎平成 29 年 6 月 23 日 第 43 回定時総会及び懇親会 … 参加者 17 名 (13 社・団体)
会場：TKP 上野駅前ビジネスセンター
議題①第 43 期事業報告及び収支決算報告
②第 44 期事業計画案及び収支予算案審議
③理事会任期満了による改選投票
新理事会社 (五十音順)
石福金属興業(株)、(株)岡崎製作所、助川電気工業(株)、
田中貴金属販売(株)、二宮電線工業(株)、
ハネウエルジャパン(株)、林電工(株) … 全 7 社
- ◎平成 29 年 10 月 20 日 第 63 回技術懇談会 … 参加者 28 名 (14 社・団体)
会場：東京都立産業技術研究センター本部
第 1 部講演会「RoHS 指令について」
講師：松浦 徹也氏
第 2 部業種別交流会「業界支援と今後の取組みに向けて」
- ◎平成 29 年 11 月 15 日 一日見学会 … 参加者 19 名 (11 社・団体)
見学先：①ペリー記念館
②YOKOSUKA 軍港めぐり
③戦艦「三笠」

一日見学会報告

日本電気計器研究所 斉藤尚子

東京温度検出端工業会の平成 29 年度一日見学会が 11 月 15 日 (水) に開催され、参加させていただきました。

今年度は趣の異なる見学会で、最初はペリー来航に関する歴史的資料や模型などが展示されたペリー公園・ペリー記念館、2 番目は日米の艦船を見られる「YOKOSUKA 軍港めぐり」、最後は戦艦「三笠」というコースを廻るものでした。

<まずは、ペリー公園・ペリー記念館！>

久里浜の海を見晴らすように、ペリー公園内にはペリー上陸記念碑がありました。

日本の開国を求めて来航したアメリカ海軍提督マシュー・ペリーが嘉永6年6月9日（新暦1853年7月14日）に久里浜海岸に上陸したことを記念して建てられたものです。記念碑に書かれている「北米合衆國水師提督伯理上陸紀念碑」（記念碑ではなく紀念碑です。誤記ではありません。）という碑文は、伊藤博文の筆によるものだそうで、とても達筆でした。

公園の入り口から記念碑に向かって歩くと、その右側にペリー記念館があります。とても可愛い洋館で、入り口にはペリーさんの銅像があり、温かく見守ってくれているようでした。記念館内には、ペリー来航を現した船の模型があり、2階に上がるとペリーさんとその仲間たちの似顔絵や年表、当時の相模湾の関所などを現した模型などあり、詳細がわかるようになっていました。また、館の方がとても親切に、わかりやすく説明をしてくれました。



伊藤博文による上陸記念碑

<次に YOKOSUKA 軍港めぐり!!>

とその前に、観音崎京急ホテルで、昼食を取りました。レストランは、天気が良かったせいもあり、窓からは青い海に水平線が見渡せ、所々船が浮いていて、まるで絵に描いたようなオーシャンビューが広がり、デートにはもってこいの場所でした。残念ながら平日のランチということで年配の方々やおば様が多く、デートらしき若者はほとんどいませんでした。

食事は、海の幸をふんだんに使った料理と、横須賀で有名な？カレー、デザートまであり、どれも美味しいものばかりでした。バイキングでしたので、つつい食べ過ぎてしまいました。

食事の後、いよいよ軍港めぐり。その日はちょうど海上自衛隊の海洋観測艦わかさが日本海側へ出発してしまったので泊まっていませんでしたが、日本の潜水艦が顔を出していたり、米軍のイーグス艦が7隻泊まっていたり、日本では唯一の施設である消磁所（磁気感应式機雷に反応しないように船体磁気を消すためのもの）があったりと、とても勉強になるものでした。何よりガイドさんがとにかくよく知っていて、お話が面白く、とても楽しかったです。落語やディズニーランドのジャングルクルーズ張りのもので、軍港の様子が日によって変わるのもさることながら、このガイドさんの話を聞きたくて？リピーターもかなり多いようです。

<最後は戦艦「三笠」!!!>

戦艦「三笠」の前には東郷平八郎連合艦隊司令長官の銅像がありました。艦内ではまず「三笠」に関するビデオを観ました。しかし、ここでも艦内の説明員さんが登場し、日露戦争について熱く語ってくれました。艦内には30センチ前部主砲を始め、最上艦橋、司令塔、操舵室、無線電信室

などを見ることができ、さらに日本海海戦操艦シミュレーターによるバルチック艦隊との戦争体験をすることもできました。360°、3Dということもあり、最初は楽しいのですが慣れないと船酔いをしてしまう感じでした。

今回の見学会では、歴史に触れることができ、またどの場所でも説明される方の話の面白さに引き込まれ、大変楽しい時間を過ごすことができました。たまには温度と関係のない場所も良いなあと思いました。

末筆ながら、今回このような機会を設けていただきました、関係者の皆様にこの場を借りて心より御礼申し上げます。



YOKOSUKA 軍港めぐり

戦艦「三笠」と
東郷平八郎像

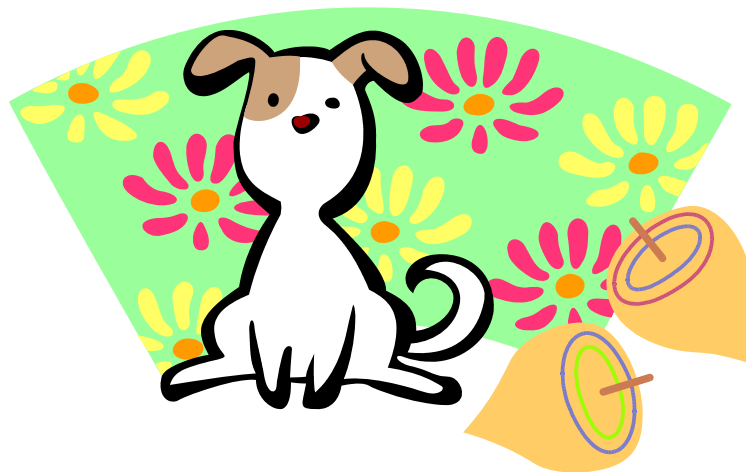


編集後記

新年あけましておめでとうございます。今年もどうぞよろしくお願いいたします。

本号でこの「センサー」は 50 号となりました。創刊以来発刊に関わってこられた先輩方から引き継いだ襷の重みをあらためて感じております。これまで原稿にご協力いただきました皆様、本当にありがとうございました。この場を借りてお礼申し上げます。今後も会員の皆様に楽しんでいただけるようより一層のご協力をお願いいたします。

本年が皆様にとってより良い年になりますよう、心よりお祈り申し上げます。



平成30年1月発行 No.50

発行所 東京温度検出端工業会

事務局

〒113-0021 東京都文京区本駒込6-5-5

林電工 株式会社 内

電話 03-3945-3151

FAX 03-3945-3130